# 令和元年度　第３次越谷市地域福祉計画策定に係る

# 「合同団体ヒアリング」

日　時：令和元年(2019 年)１１月２６日（火）１４時～

場　所：越谷市中央市民会館５階　第１２会議室

**○団体出席者（８名）**

地域包括支援センター大袋　センター長

越谷市東部障がい者等相談支援センター　施設長

越谷市南部障がい者等相談支援センター　管理者

越谷市北部障がい者等相談支援センター　管理者

生活自立相談よりそい　所長

地域子育て支援センター　越谷市立増林保育所　主幹

ボランティア連絡会　会長

越谷市国際交流協会　事務局

## １　開　　会

## ２　あいさつ

福祉推進課長より挨拶を行った。

## ３　自己紹介

順番に自己紹介を行った。

## ４　地域共生社会について（資料１）

事務局より、「地域共生社会について」の説明を行った。

【越谷市国際交流協会】

約３年前に文教大学の学生とＳＯＳゲームを行った事がある。各地域で実施していく事は、難しいと感じた。

【事務局】
文教大学の考案で行われている事業である。約３年前に行った地区は北越谷地区と大沢地区である。多くの住民は福祉に対し、取り組みにくさ等感じている事があると思うが、地域で複合的な問題が発生している中で、多くの住民に気づきを得てほしい。そのため、ＳＯＳゲームの取り組みを１３地区に広めようと考えている。

## ５　各団体の活動について（資料２）

【地域包括支援センター大袋】
越谷市は１３地区ある中で、地域包括支援センターは市全体で１１カ所設置している。
私が所属している地域包括支援センター大袋では、市の西部にある大袋地区にあり、大袋地区の人口は約８４,０００人在住している。６５歳以上の人口が約１２,０００人であり、越谷市の１３地区の中では、高齢者人口が一番多い地区である。
地域包括の内容は主に４つであり、介護保険法で示されている事業である。６５歳以上の方の総合相談窓口を行い、健康の事や介護の事等の様々な困り事や相談を受ける機関である。また、要支援１の方や介護保険の事業対象者等の方向けに介護保険サービスのプランニングを行っている。
権利擁護に関する事業も行っており、例えば、息子、娘が両親に暴力や暴言を行う家庭に電話をし、対応している。日本の高齢者の虐待では、息子、娘に対し、指導等を行うが、息子、娘が虐待に至るまでの経緯を一緒に考え、どのような形がその過程に良いか検討している。
さらにオレオレ詐欺や還付金詐欺等に合わないよう高齢者の方に注意喚起を行っている。
地域の自治会長や民生委員、福祉推進員と連携をとり、「そこの家のおばあちゃん見かけないのだけど・・」等の連絡がスムーズに行えるようなネットワークを作る事も業務である。
市役所から事業の委託を受けており、認知症サポーター養成講座や認知症に関わる事業（例えばオレンジカフェの設立）のお手伝い等のような対応も行っている。私が仕事をする上で困っている事は、各連携先についてである。地域包括ケアシステムは医療と介護と地域の３つが連携をとり、地域で生活する高齢者の方の支援を行う事がシステムの内容だと思うが、現場で業務を行う側として、医療側の機関との連携はとる事ができるようになってきたと感じる。しかし、地域内で連携をとる事はなかなか難しく、支えづらい事がある。例えば、生活保護に関する申請を行うため相談する際に、様々な問題を抱えている事が分かる。１人暮らしで身寄りが近くにいない方は、１人暮らしになる過程の中で、息子、娘と疎遠になり、連絡がとれない場合などが多く、病気等で何かあった時に、誰が保証人になるか等の問題を抱えている。その場合、我々は何もできない。身寄りがない、近くに協力的な家族がいない高齢者の方が地域に増加してきていると感じており、単独では活動できない。

【越谷市北部障がい者等相談支援センター】
越谷市からの委託事業として、東西南北の４つの地域に分かれ活動している。基本的には、相談対応を行っている。相談内容としては、障害福祉サービスの利用等の相談も

あるが、越谷市からの委託であるため、年金の申請や取得の様々な制度利用のアドバイスなど、障害福祉サービスでない相談に関しては、地域にある支援団体の紹介や生活保護に関する事であれば、生活自立相談よりそいの紹介を行う等、各専門機関と協力しながら、相談対応を行っている。

相談者の対象は、基本的に３種類の障害であり、身体、知的、精神と児童で全領域を対象として行っている。相談者の相談ケースはそれぞれであり、高齢になり、独居で暮らしている方もいれば、比較的若い世代が親子で暮らしている世帯もある。相談者の親子の中で、親と子の思いがそれぞれ違いがある場合がある。その際はどちらの思いをくみとるか苦慮することがある。若い世帯で相談に来た事例の場合、子に障害があり、手帳もあるが、親子問題の側面が大きかった。家庭や子育ての問題として捉えた時に、障がい者等相談支援センターにつなぐべきなのか悩んでいる。

地域包括支援センターとの連携も１つの柱になっているが、地域包括支援センターと比較した場合、目線やアプローチの仕方が少し異なっていると感じる。地域包括支援センターとは情報や意見を共有する場等を重ねていく必要があると感じている。

また、障害児の支援を行う機関が少ないと感じている。児童相談所で対応してもらえなかった場合、対応できる機関がないのが課題である。

【越谷市南部障がい者等相談支援センター】

地域包括支援センターとの関わりが大切だと思っている。今までは、障がい者等相談支援センターで様々な相談の対応を行ってきたが、引きこもりの息子や娘、自閉症の子がいた等の相談があり、地域包括支援センターからこのような相談事例を共有する事でサービスにつなげていきたい。そのため、地域包括支援センターとの連携が一番大切ではないかと思っている。

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】

障害者支援に関する地域資源が非常に少ないと感じる。高齢者支援に関する資源と比べると、劣っていると感じる。最近、急激に増えてきている事例が、親が頑張って障害を抱えている子どもの面倒をみているが、親が入院してしまったときに、子どもの面倒をみてくれる施設が少ないという事例である。先ほど、このような相談を電話で受けた。先日に相談された事例では、結局対応してもらえる施設がなく、市外である秩父市の施設で対応してもらった。

障害者支援に関する地域資源が少ない事は、越谷市のみならず他の市町村でも起こっている事だと思う。相談対応を行うたびに、この機関に繋がればと思っており、連携をとっているつもりであっても、事前に多機関と連携をとっておけば、相談者を各機関につなぐ事ができ、事が進むんだろうなというところはあると思う。

第２次地域福祉計画の重点施策に「地域で支え合う仕組みづくり」と記載されていると思うが、現場で仕事をしている立場としては、越谷市が取り組んでいるとは感じられない。中核市になったので、越谷市独自で地域団体の交流会等があると良い。埼玉県社会福祉協議会では、賀詞交換会を行っており、その場では、老施協等の団体が参加し、様々な方々が交流できる。

【越谷市北部障がい者等相談支援センター】
６５歳になったら、介護保険のサービスを利用する事を勧められる。しかし実際のところ、介護保険では、自己負担が発生するため、仕組みの説明や介護保険の案内の仕方を柔軟・適切に行ってもらいたい。
また、就労に関する相談が増えた。市役所から紹介され相談しに来た方がいたが、仕事がしたいため、就労の相談がしたいとの事だった。なぜ越谷市北部障がい者等相談支援センターに相談しにくるのか。最初に就労支援センターに相談してもらうべきである。それ以外において生活面を含めた悩みや問題の相談であるならば、障がい者等相談支援センターが相談の対応する事が妥当であるが、ケースワーカーが就労支援をどのように捉えているのか気になっている。

【生活自立相談よりそい】
平成２７年４月から生活困窮に関する新しい法律が制定され、法に沿って相談支援を行っている。相談者は生活全般に関する事や収入が少ない事、就職できない事等、様々な問題を抱え、相談しに来る。これは越谷市だけでなく、様々な他市町村の自治体でもそのような状況だと思う。生活自立相談よりそいは、総合相談窓口の中で就労的な相談や金銭的な家庭改善支援、また住宅費の住居加工給付金の支援も行っている。就労支援に関しては、ハローワーク越谷と連携をとりながら、相談者と雇用先の情報を共有し、相談者に合った仕事を紹介しているが、人によってはすぐに決まる方や３か月かかり仕事が決まる方等、様々である。
先ほどおっしゃっていたが、支援や対応が難しい問題を抱えた相談者が越谷市から紹介され、生活自立相談よりそいに相談しに来た事がある。しかし、丸ごと受けとめ、対応する。まずは断らない支援をモットーにしているため、各課からきていただいた支援に関しては、受けとめるつもりである。
私自身、６月から越谷のよりそいに、赴任した。私は越谷の住民だが、この仕事を１０年間他市で行っていた。そのため、改めて、住んでいる地元を知ろうと地域の人たちと様々な場に参加し、顔を知ってもらいながら活動を続けている。
その活動の一つとして、フードドライブがある。各地域包括支援センター、生協、スーパーカスミ等の協力をいただいている。他市町村でもフードドライブを行っていたが、食品が余ってしまう事が多かった。越谷市では、多くの食品が配給される。食料に困っている方がたくさんいるのではないかと思っている。
また、持ち家があり、ローンが払えない方には、弁護士や司法書士を紹介し、個別に相談を行っている。駅前にある弁護士事務所とは、頻繁に連携をとっている。また通院費が払えない方には、無料の診断を行っている病院があるため、紹介し同行も行う。
就労に関して生活自立相談よりそいに相談してきた時は、本来他の機関で対応するべきではないかと思うことがある。しかし、よく相談内容を聞くと、就労に関する問題だけではないその人の悩み等が分かるので、丁寧に聞きながら対応している。
６月から生活自立相談よりそいに赴任したが、よりそいに関する周知がされていないのではないかと感じた。広報にも掲載されているが、相談してきた方に知った経緯を聞くと、広報で知った方はおらず、インターネットで知った方が多かった。また、厚労省から発表している就労相談件数があるが、その相談件数と越谷市を比較すると、越谷市の相談件数は少ないと感じた。周知の方法をどのようにしたら良いか生活福祉課とも月１回の定例会や調整会議を開催しながら検討する事を希望している。

断らない事をモットーにしているので、高齢者の方や小さな子どもがいるから難しいと考えるのではなく、まず相談しに来てほしい。

【越谷市立増林保育所子育て支援センター】
子育て支援センターは、越谷市では私立と公立がある。公立は３カ所であり、増林保育所、荻島保育所、新方保育所である。
その３カ所とも同じ業務内容で活動している。業務内容としては、一時保育、子育て相談（面接、電話）、子育てサロンがあり、子育てサロンは毎月年齢ごとに分かれ行っている。子育て広場は、月１回あり、増林保育所の子どもたちと交流しながら遊ぶ。子育て講座は月１回行っており、外部から講師を招き、地域の子育て世帯を対象に講座を行う。年齢別子育て連続講座を年間５クール行っている。３週連続の講座である。０歳２クール、１歳２クール、２歳１クールで行う。園庭開放は夏場を除く、毎週木曜日に保育所の庭を使用してもらい、遊んでもらう。おでかけ広場は、近くの公園に行き、絵本や紙芝居を読み聞かせている。保育所に絵本のコーナーがあり、そこを開放して、地域の人が見てもらえるようになっており、貸出しも行っている。
一時保育は最大１０人までしか対応できず、電話で予約を行うが、予約開始日に、予約が埋まってしまう事がある。緊急時に子どもを預けたいときに預けられない親もいる。一時保育は支援が必要な子どもが増えてきており、職員の加配はできないので、その場合は人数の調整を行う。支援が必要な時、保健センターや発達支援センター等と連携をとり、よりよい支援ができると良いと思う。
園庭開放やサロン等があった時には、両親とお話をしながら、不安を取り除けたら良いと思っている。情報誌等を発行し、子育てネットなどで講座や園庭開放を周知する。そして、来てもらい、両親と話す事で子育ての不安を取り除けたら良いと思う。

【越谷市ボランティア連絡会】
ボランティア連絡会は、会費で賄っている団体である。
越谷市内の主な施設で７０歳以上である１人暮らしの方を対象とした給食サービス、お手紙を出すボランティア、手話のグループ、弱視の方のために教科書の文字を拡大するなど。また、視覚障害者の方に毎月、市の広報と社協だより、議会だより、ごみ収集カレンダー等、生活に必要な情報をＣＤに録音し、希望する方に送付している。
最近は傾聴活動が非常に多くなってきている。今までは、傾聴活動も施設に伺い、グループで行っていた。最近では自宅に来てほしいとの要望がきている。ご自宅に上がる際、相手の方が高齢や認知症になりかけている方もいるため、取り決めとして、ご家族が必ずいる上で、傾聴活動を進めている。
グループには約３５人所属しているが、ニーズに応えられない事が多い。ボランティアのため、各支援者にも生活があり、相手が希望している日程と合わない場合がある。一番困っている事は会員の減少であり、一時期は約１，０００人所属していたが、今は、約６００人である。平成元年から活動してきた人達が７０歳以上になった。高齢者にとっての生きがいの場所にもなっている。
役割として、支援や活動できる範囲は一生懸命に活動している。地域の現状として子どもが年々減っており、幼稚園で簡単な保育を２歳くらいから練習のような形で開始しており、実際には３歳から幼稚園に入園するなど、プレ的な事も行っている。親は２歳

から幼稚園に連れていくため、地域とのつながりや子ども同士のつながりがなかなか難しい。その場に高齢者の方と活動したいとの意見をいただくが、今の若い方についていけないのか、ついていこうとしないのか世代の格差が埋まらない。

私たちが活動しているボランティアは、生きがいややりがいを感じ、活動している方たちは役にたっていると思い、活動している。

これから将来の事として考えている事は、現在８０歳以上の方も活動も行っているが、年齢に制限がないため、動ける範囲で活動を行っているのだが、会員数が増えない現状があり、非常に難しい。介護保険のポイント制度が導入されてから、ポイントを増やすことを生きがいに活動している方もいるが、その制度が連携されておらず、会員に結び付く事がない。また、直接個人で申し込んでくる方は誰かと活動し、励まし合う事がない。私たちの団体と連携し、仲間として上手く活動できると良いと思う。

【越谷市国際交流協会】

最初に越谷市国際交流協会の立ち位置を紹介したいと思う。十数年前に、越谷市内で行政改革があり、市役所から独立した団体である。現在は任意の団体であり、補助金をもらいながら、活動を行っている。今日は、第３次地域福祉計画に係る団体ヒアリングに呼ばれている事が国際交流協会の事務局でも不思議だった。市民活動支援課と話す場があるが、市民活動支援課の職員も団体ヒアリングに呼ばれている事は知らなかった。しかし、市民活動支援課の職員は、「多文化共生の考え方を第３次地域福祉計画の中に取り入れる事はとても良いと思う。現在、越谷市で多文化共生プランを今年度に策定しており、来年度から優先順位を決めて、役所で行う事と市民に協力してもらう事を分けて実行していく」と言っていた。

協会は今までは、外国人の方との交流を主体に活動していた。最近の越谷市では、外国人の定住者が多くなり、越谷市でも約７,０００人である。さらに、１年前に外国人労働法が改正されて、これからますます労働者が増えていく。しかし越谷市国際交流協会では、外国人の方に対して、支援事業を行っていない。これからは、交流だけでなく、支援も考えていく必要がある。国際交流協会では、年１回、越谷国際フェスタ行っており、そこでは越谷市と在住外国人を触れ合う事や異文化理解を目的としている。そのほかに在住外国人とのおしゃべりサロンの開催をしている。

また、小学校に入学する事に関して外国人の場合、小学校に入学する事は義務ではない。これから定住率が増えてくると、日本語が分からない子や保護者がでてくる。小学校の先生が全て対応する事は、難しいと思う。なので、入学ガイダンスや高校進学会を開催し、高校、大学に入学してもらい、越谷市の力になってもらいたいと思っている。また、幼稚園や保育所等に小学校に入学する事に関するアンケート調査を行っている。保育園は保護者と先生が１対１で会うため、外国人のお子さんがいても、あまり困る事はない。幼稚園も同じであり、保護者と会う機会があるので、あまり問題にはならない。しかし、小学校では、中学校と小学校、幼稚園等と連携がないため、小学校だと通学班で行き、保護者と学校の先生が会う機会はない。外国人の子は日本語が非常に不十分であるため、個室で日本語などを教える。指導員として協会からも支援するが、その中から様々な問題が挙がってくる。挙がった問題を協会がデータを集める事はない。そこまで支援しなくても良いとの事である。

外国人に対し、日本語のボランティアも行っている。その活動からも困り事が挙がってくる。協会で集計はしていない。市役所は多言語で広報を作成しているが、協会には

外国人の会員が少なく、日本人同士でやっているため、多言語による広報等の情報がどのように外国人の方に伝わっているか分からない。
外国人の方達は外国人同士のネットワークがあり、日本語が分からないため、他の外国人に聞いている。どのように相談しているのかわからず、越谷市民と外国人市民のふれあう機会が非常に少ない。
越谷市では、障害者や高齢者等に関する問題があると感じる。地域共生社会の中に越谷市国際交流協会を含めてもらった事はとても良いと思った。私は、約１０年前に多文化共生講座を滋賀県で１５０時間受け、基礎から応用編まで様々な多文化共生の施設や学校をめぐった。越谷市もこのような外国人の方に関する支援や相談を福祉の生活の中に含んでもらい、個人的にはホッとしている。
個人的に一番大切だと思う事が外国人の定住率を上げる事である。外国人の定住率を上げる施策を行う場合、様々な資源が充実してくるのではないか。市民の意識も外国人を受け入れる事に対して、向上するのではないか。外国人技能研修生が越谷市には多く在住しているが、市民と触れ合う機会があまりない。雇う側の企業が外国人技能研修生の生活の全てを管理している噂もある。

【福祉推進課】
各団体の活動について質問があれば、いただきたい。

【越谷市北部障がい者等相談支援センター】
越谷市ボランティア連絡会の活動において、傾聴活動が高まっているとの事であるが、自分の話を聞いてほしいという方が増えているのか。

【越谷市ボランティア連絡会】
施設から声が挙がっている。施設によって、デイサービスで来ている方のお話を聞いてほしいとの依頼がある。自宅で過ごし、テレビを見ている方が多いため、そのような時に昔話をできるような活動を行っている。昔話を傾聴すると、みな楽しそうに話す。歌を歌う事もあり、時間はかかる事もある。それらの活動を通し幾度も顔を合わせる事によって、少しずつコミュニケーションが生まれる。楽しそうに昔話を話し、良い顔で帰られる。

【越谷市南部障がい者等相談支援センター】
傾聴活動を希望する方はデイサービスの利用者が多いのか。

【越谷市ボランティア連絡会】
グループホームでも依頼がある。

【越谷市北部障がい者等相談支援センター】
個人宅からも依頼があるのか。それは、デイサービスで傾聴活動を行っている事を知っているからか。

【越谷市ボランティア連絡会】
ケアマネージャーから依頼がある。

【越谷市南部障がい者等相談支援センター】
その場合、個人宅への依頼が多いのか。

【越谷市ボランティア連絡会】
そうである。個人宅の場合、問題が多い。こちらから条件としてご自宅に家族がいないとできない事にしている。

【越谷市南部障がい者等相談支援センター】
独居の場合、依頼する事は難しいのか。

【越谷市ボランティア連絡会】
独居の場合ケアマネージャーに同席してもらえればよいが、ケアマネージャーも対応できないため、難しい。傾聴活動を行う場合、１対１では行わず、２名で行う事が多い。

【越谷市ボランティア連絡会】
精神的に障害を抱えている方が、自立するためにボランティア活動をし、次のボランティア活動として越谷市ボランティア連絡会が勧められ、訪ねてくる。その場合、私たちの立場として病気や障害について（専門的には）分からないため、対応できない。
自立のためにボランティアの活動範囲を考えると、受け入れてもらえる先がない。受け入れてもらうため、受け入れ先に越谷市ボランティア連絡会が受け入れたい人の特徴や思い等を伝えるが、難色を示され難しい。
私たちからみれば、ボランティア活動は自立支援に役に立つものか分からない。

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】
恐らく、紹介するボランティア活動が無い事はないと思う。私が所属しているセンターでは障害者の方を受け入れる事もあり、障害者の方の雇用についても採用している方もいる。ボランティアは財政的な事を考えると圧迫するものではない。
受け入れる側の障害に対しての理解等になると思う。埼玉県社会福祉協議会で行っている「彩の国あんしんセーフティーネット事業」という事業があり、就労に対する受け入れ等を率先的にやってくれる法人に登録してもらっているが、入会している法人も３法人しか登録がない。
市内の法人で就労を行っている所はないが、市外では登録している法人があるので、そのような法人に相談をすれば、快く就労前のボランティア体験という事で、受け入れてもらえる可能性がある。
「彩の国あんしんセーフティーネット事業」に登録していなくても、市内の法人に事情を話せば受け入れてくれる法人があると思う。

【越谷市ボランティア連絡会】
　実際には、草むしり等でボランティア活動した方が「役に立ててよかった。」と言っていたが、次のボランティア活動として違う事を行いたいと言われると、探す事が難しい。

【福祉推進課】
傾聴活動が個人宅から依頼がある事は聞いた事がなかった。

【越谷市ボランティア連絡会】
　ケアマネージャーを通じて依頼があり、依頼がある方はデイサービスを利用していない。何回も話合いの場を設け実施している。個人宅で傾聴活動を行っている数は少ない。

【福祉推進課】
　先ほど、越谷市国際交流協会でも他機関と交流の場が少ないため、様々な機関と交流する事は意義がある事や障がい者とボランティア活動の問題や外国人の方が介護を必要とする場合、どこに相談すれば良いのか等、複合的な問題を各団体や機関で経験したことがあると思う。最初のあいさつで第３次地域福祉計画の策定の１つの場である事を説明したが、地域福祉計画を策定するためだけに団体ヒアリングを行う事ではないと思っている。今日に限らず、様々な事例の共有等を行ってもらい、先ほど、越谷市ボランティア連絡会から話があった障がい者とボランティア活動の場合、ハローワーク、ケアマネージャーから依頼があり、福祉の専門職が一緒に関わりながら活動を行った方が、ボランティアの方も安心感が大きいと思う。ボランティアの方の思いや各分野の機関の現場の思いが互いに分かりづらい面もあるので、このような場で情報共有してもらう事がとても意義があると思っている。
　今日の団体ヒアリングの内容を記録にとり、紹介等を行う事を検討しているため、場合によっては、再度お話を聞かせて頂けたらと思う。
【越谷市ボランティア連絡会】
　ケアマネージャーから依頼がくる場合、傾聴できる方は限られるが、少しずつ依頼件数は増えている。
最終的には、施設ではなく、様々な人に傾聴活動を行いたいと思っているが、弊害になる事は全部解決した上で活動しなければ、問題が起きた時に責任がとれない。そのため、慎重に行っている。

【越谷市国際交流協会】
　全体の機関に関わる内容かもしれないが、私の弟は現在６３歳であり、２０数年前に病気になった。最近、入院する事になったが、医者から１人で生活する事は難しいと言われ、グループホームを勧められた。ケースワーカーから聞いたが、障害福祉サービスのグループホームは、６５歳になると、介護保険への切り替えを行うため、入所が難しいと言われた。老人ホームではどの程度の費用がかかるのか聞いたら、約２５万円と言われた。費用の支払いが難しいため、私は越谷市の障害福祉課に行き相談したが、福祉サービスの障害者区分を説明されたが、今まで知らなかった。

ケースワーカーから障害区分の調査を行い、グループホームに行くにあたり、どのような支援が必要なのか相談すると言われた。介護保険、障害福祉サービスの制度は、よく分からず、サービスの規模が大きいと思った。
弟はアパートで暮らしており、母が支援をしていたが、母が９３歳となりグループホームに入所したため、今後は私が支援を行わないといけない。
障がい者の方が家族等にいたとしても、周りに助けてくれる人や制度があれば安心である。各市民の身近の人が障害や病気を患ったときに、どのような人が助けてくれるか把握していると、楽に感じられる。他機関等と関係をもっていれば、事が楽に進むと感じる。連携は、最終的には自分がつくるものであり、組織を理解していると安心である。

【福祉推進課】
越谷市ボランティア連絡会の事例については、ボランティア連絡会に訪問してきた方の相談に対して、ボランティア連絡会で行っているサービスでは対応できないケースに対し、その中で他の機関で対応できる可能性がある。様々な場で互いの機関がどのような業務を行っているかを知り、ネットワークを作る事で、対応できない方のニーズに応える事ができる。越谷市国際交流協会の事例でも、複合的な課題に該当してくると思うが、市役所の行政サービス等に該当しない場合、市民のボランティアや NPO に様々な相談支援機関の方で、そのような問題が解決できる可能性があると思う。
このようなネットワークをもっと広めていけば、自分の所では解決できなかった問題が解決できる可能性が高くなると思う。越谷市の第３次地域福祉計画では、そのような問題を市として、どのように解決していくかを皆さんの意見を踏まえながら、考えていきたい。

## ６　意見交換（資料３）

事務局より、「地域における活動上の主な課題（共通・個別)」の説明を行った。

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】
人材確保についてだが、職員雇用の人材確保の点で、苦労している。埼玉県社会福祉協議会で、福祉人材の合同面談会を行っており、県内全域なので、12 月 20 日にサンシティで地域の団体を中心に行うが、それ以外は大宮や熊谷等、広い地域を対象に行っているため、越谷市社会福祉協議会で音頭を取ってもらい、越谷市が主催で開催してもらいたい。
大宮で開催の場合、会場は大きいが、越谷から遠い。越谷市でやる場合、年度によっては、３月末に人材フェアを行う事がある。時期的に参加が難しく、昨年度は介護保険の事業所連絡会に参加させてもらった。分野で集まった合同面談会等を越谷市が、開催してもらいたい。
今の時代、福祉、介護業界含めてだが、人材難であるため、開催してもらえるならば、地元の方々の雇用等、いい方向であると思う。検討してもらえると良い。

【福祉推進課】
事業所連絡協議会の方には相談されたのか。

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】
正式名称は分からないが、介護保険事業を行う団体は３団体ある。

【福祉推進課】
相談した機関は、市役所でないという事か。

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】
そうである。しかし介護保険課のサポートは受けており、介護保険課の後援で開催したと思う。同じ介護業界でも障害に対する理解が異なる中で、知的障害の方を知ってもらうために、事業者同士がつながった方が良いと思った。１ブースだけ借りられないか相談したが、高齢分野の団体は１ブース１団体であったが、障害分野は１ブースに３団体だった。そのような場で交流等ができると思っている。

【福祉推進課】
管轄している課には相談しているが、実現しないという事か。

【越谷市東部障がい者等相談支援センター】
自立支援協議会で相談をしている、社会福祉協議会に場を設けてもらいたいと話している。

【越谷市国際交流協会】
人材活用の担い手で、国際交流協会では、数年前からふれあいの日と同じ日に越谷国際フェスティバルを行っている。保育園、幼稚園、高校、中学校、大学、一般市民に広く呼びかけ、当日のボランティア参加者は１００人以上参加してくれる。しかし、参加者たちが越谷市国際交流協会に入会し、委員会活動を行う所まではいかない。
【地域包括支援センター大袋】
高齢化率は、６５歳以上の方を含めている。地域で我々が関わらせてもらっている７０代前後の方は、元気な方が多い。先ほどの資料１のグラフに掲載されていたが、介護保険の要介護認定者が増加するとのことだったが、逆に言えば、８０％以上の方が介護保険を使用していない、認定すら受けていない。
我々のような福祉に関わる団体に集まる方々は女性が多い。男性も活動しているが、民生委員や自治会長等、名前が付く役職の業務が多い。自ら手を挙げるより、推薦や後押しにより活動を行っている。６５歳以上の方々も高齢者を支えることは可能である。第３次地域福祉計画を通じて、男性高齢者を地域の担い手の一員にできるよう考えていただきたい。人材不足の解消になるかもしれない。

【越谷市北部障がい者等相談支援センター】
私は、今の意見に賛成である。福祉 SOS ゲームは、ゲーム内容は良いが、これは既存の資源を地域住民が知り、他の住民につなげる事だけである。地域住民の中から発掘し、育てていく仕組みを作らなければ、相談事が専門機関に集中するイメージである。

第３次地域福祉計画の策定過程において、課題解決を高める取り組みとして、SOS ゲームあると思うが、資源や人材をすくい上げていく取組みが必要である。

【福祉推進課】
福祉ＳＯＳゲームを地区で徐々に浸透させていくように努めるが、直ちに新しい人材を発掘する事は難しい。資源マップと事例カードを作成し、資源マップで解決できれば問題ないが、事例カードの内容が困難事例の場合、どの機関につなげても難しい状況であるため、その中で住民がどのように解決するのかを考えることもできる。福祉ＳＯＳゲームは地域資源を根付かせる事に近いため、課題解決より、地域課題に対して「我が事」の意識を持てるようにするために活用していきたい。
狭間の問題に関しては、場合によっては、別問題かもしれない。それは専門機関同士の連携やボランティアの連携等、支援している人達の連携になる。共生社会でありながら、場面ごとに機関によってとらえ方が違うと思う。

【越谷市国際交流協会】
私は今の意見に賛成である。東日本大震災時に多くの人と関わった。小学校や中学校、自治体等多くの機関と関わった時に人材を育てる必要があると感じた。私は行政をいい意味で「小さく」みるよう心掛けている。行政を小さくみると、様々な人がいろいろな事を行っている事が分かり、様々な人と関わる事で、それがネットワークにつながる。

【越谷市ボランティア連絡会】
人材確保についてだが、６５歳で定年退職後、多くの女性は色々なところで活躍している。越谷市ボランティア連絡会に男性は７０代、８０代の方が約１０名しかいない。若い方が地域で参加できる企画を開催しても、助け合いの担い手になってもらおうとしても、７０代過ぎである。６５歳以上の方はいない。

【地域包括支援センター大袋】
男性が都内で働いている事は多いと思う。男性が働き盛りの時に地域にどれだけ関わっていたかが退職後の地域の関わり方に大きく左右されると思う。働き盛りの４０代、５０代の男性を集め、講座等を開催してもらえると良い。

【越谷市ボランティア連絡会】
地域愛が育ってない気がする。出身地に戻る考えの人もいる。越谷市を終の棲家と考え、自分が住む町を良くしたいと思えるようにしていく必要があると思う。

【地域包括支援センター大袋】
地域の活動に参加している女性の事例だが、旦那さんが外出しない生活になってしまうため、自身で参加し、民生委員や福祉推進委員の活動を行い、その後サロンを立ち上げ、サロンの会計や冊子づくり等は旦那さんに依頼する。旦那さんは少しずつサロンに関わっていき、民生委員になったという事例がある。

男性は目的がなければ参加できない。女性が多く参加している地域より、男性が女性と盛り上げていく地域の方が活動的である。

【福祉推進課】
男性という言葉が多く発言されているが、保育所で父親が面倒見ないとか、子育てにおいて、男性が関わっている問題等あるのか。

【越谷市立増林保育所子育て支援センター】
行事では、母親が参加している家庭が多い。しかし、最近では、修了式は両親で参加する家庭が多く、協力的な父親も増えていると思う。今の若い世代は、２人で仕事をしている事が多い。

【福祉推進課】
定年まで数年である男性が働き盛り世代であり、都内に勤務しているため、寝泊まりだけのため、日々の活動に参加できない。

【地域包括支援センター大袋】
その通りである。そのため、１０年２０年経過すると、働いている女性が増え、地域に参加しづらい社会になると思う。

【越谷市国際交流協会】
外国人の場合、それらは別の問題である。外国人の方は、情報が自分にとって、特であるか、損であるかで判断する。日本の幼稚園や学校の文化を理解している外国人の方は少ないと思う。給食の時間に、外国人の子どもがハンバーガーを持ち込み、食べていた事例がある。

【福祉推進課】
生活自立支援よりそいでは、相談の中で、男性であることが（地域参加、地域における居場所などの面で）背景的な課題となっているような事例等はあったのか。

【生活自立相談よりそい】
３０代半ばの若い男性から、大家から騒音が迷惑なため、転居費をこちら側で負担するので引っ越してほしいと言われたとの相談を受けている。ほかの相談者は高齢者の方が多いため、それらの相談を地域包括支援センター等と連携が取れると良い。
私が住んでいる地域では、老人会で活動している住民は活発であり、「イケメン会」と呼ばれる高齢男性中心の団体もある。自分が住んでいる地域の事を全く知らなった。
川越市の相談件数は越谷市の３倍以上である。自治会の会議にも参加させてもらっている。小学生の登校時に様々な問題が発生しており、高齢者の方がビブスを作成し、毎朝立っている。子どもたちが安全に通学できるように、活用しなければならない。

【福祉推進課】
登下校時の見守りは、様々な地域で行っている。

【生活自立支援よりそい】
　男性だけでなく、女性も参加してほしい。みんなで地元を生活しやすい環境にし、活動していきたい。

## ７　そ の 他

【事務局】
　第２回団体ヒアリングは、令和２年２月頃の開催を予定している。開催の一ヶ月前頃に、開催通知を各委員宛に送付させていただく予定である。また、今回のように調書等を記載していただく事も想定されるため、その際ご協力をお願いしたい。

## ８　閉　　会

**団体ヒアリング終了（～16：00）**